

	質問	回答者	回答
1	菊池さんに質問です。「郷土学習講座」について教えてください。①毎月開催は大変だと思うのですが、講師、タイトルの企画、登壇依頼はどのようなサイクルで行っているのでしょうか。②告知、宣伝の方法、運営スタッフの人数、謝礼の有無、参加者の年齢層、リピーターが多いのかを教えてください	元つがる市菊池様	①開催月が4月から翌年1月と長いスパンのイベントなので、次年度の企画はその年度のイベントを行いながら考えます。NPOとの共催事業なので、講師案の選定と依頼はNPOに行っていたいです。タイトルについては、年度初めの周知開始までに講師が考えてくださいます。 ②告知や宣伝は、①とは逆に図書館主導の部分が多く、図書館HP、SNS、地元広報誌への掲載、イオンモール内サイネージへの表示など、ひと通り請け負っております。 また、当日の運営スタッフは図書館2名、NPOが4名程度です。会場設営から受付での資料配布まで、協力して行います。謝礼は有。参加者は高齢の方を中心に若年層も参加しており、リピーターも多いです。
2	美馬市立図書館の梶浦さんに質問です。デジタルアーカイブで市民の方から提供された写真素材について、関連グッズを作る際に配慮や調整しなければならない権利関係などありましたでしょうか。よろしく申し上げます。	美馬市梶浦様	募集時から図書館での活用を想定し、応募に際して同意いただく注意事項として「著作権・肖像権等について」「掲載について」の項目を募集要項に盛り込んでいます。 https://mimacity.jp/wp-content/uploads/2023/06/requirements.pdf 内容は次の通りです。 「著作権・肖像権等について」 ・掲載された写真の著作権は、応募者(撮影者)が所有していますが、図書館は刊行物などへの掲載や美馬市立図書館Facebookページへの公開について、応募写真を無償で使用する権利を保有するものとします。 ・写真に人物が含まれる場合、その人物の肖像権に関して、図書館は一切責任を負いかねますので、応募者本人の責任において写真を応募してください。 「掲載について」 ・応募いただいた写真の掲載可否や掲載する刊行物、掲載時期等は、図書館で判断させていただきますので、ご了承ください。 ・掲載にあたり、応募者への連絡・確認はいたしません。また、使用期間に期日は設けません。 ・写真データの一部を加工して使用する場合があります。 個人の場合は、これをもって図書館での活用を行っていますが、教育委員会など団体については別途利用申請を行う場合があります。
3	梶原様および皆様に質問です。地域資料やアーカイブの意義についてどうお考えですか。地域住民全員が地域の歴史に興味を持っているわけではなく、「地域の歴史アーカイブにお金を使うのではなく、もっと経済活動や雇用に結びつけてほしい」という意見もあるかと思います。	美馬市梶浦様 豊田先生 元つがる市菊池様 名古屋市脇田様	美馬の記憶デジタルアーカイブは、「美馬市」をテーマ、「のこすこと」「伝えること」「シビックプライドの醸成」を目的にしたデジタルアーカイブです。当館では、デジタルアーカイブ事業を「地域の課題解決」のための事業と位置づけています。 「歴史・文化の継承」は地方を問わず、共通の地域の課題だと考えます。そして、地域には、のこし伝えるべき財産(資料)があり、地域資料を収集することは図書館の責務と考えます。 また、収集や公開の方法を工夫することにより、費用を抑えてデジタルアーカイブを構築することも可能です。 地域資料のアーカイブをやろうとするときは、単に資料を保存するだけでなく、今回の梶浦さんの発表にあったように、地元を巻き込んだり、それらを有効に活用してもらったりする仕掛けが必要だと思っています。それは地域活動につながり、経済効果にもつながり、広く住民の理解を得る活動になるからです。 アーカイブについては、利用まで見据えてアーカイブ出来ると良い、と思います。地域資料をデジタル化(アーカイブ)し、多くの人が活用できる環境を整えていくことは、地域の経済活動や雇用の活性化に資するものと考えます。 図書館は過去の資料をまだ見ぬ利用者に向けて準備する場所だと思っていますので、現時点で興味がある人がいるかどうかを考えて収集するかしないかを決めることはことは難しいと思います。過去の記録が現在の経済活動に結び付くことも十分考えられます。
4	みなさんに質問です。魅力的な企画の広報をどのようにされていますでしょうか。企画の様子を伝える上で、地元の新聞やテレビ局からの取材などあるといいとおもうのですが、どのようにされてましたでしょうか	豊田先生 元つがる市菊池様 名古屋市脇田様	ALAでは、ストーリーを語ることの重要性を強調しています。図書館がどうする(どうした)というような図書館を主語にした広報ではなく、そこにいる住民が図書館の介在によって課題を解決した(していく)、というあくまで住民を主語にしたストーリーです。日本でも広まるいいなと思っています。 基本的な広報はすべて実施しつつ、「〇〇しました」という簡単なイベント実施報告を図書館HP上に掲載し、SNSでもお知らせしたことがあります。 ブログのような感じで、イベント当日の様子を伝えたと、沢山の方に見ていただいたことがアナリティクスから判明し、以降はHP上にも掲載するよう、心がけるようになりました。過去のイベント報告は、今後の図書館のイベントに興味を持ってもらうきっかけになると感じております。 基本的には市の広報やSNSですが、連続して講座を行っているとして一度参加された方が口コミで広めてくださることも多いです。また私たちの事業は特定の人(例えばディスレクシアや吃音、依存症など)を対象にしたものもありますのでそういった場合は地域の活動する会を通して情報を広めてもらうこともあります。

	質問	回答者	回答
		美馬市梶浦様	イベントの広報については、地元の新聞社やケーブルテレビに取材依頼をしますが、対応していただけるものは限られています。美馬市立図書館では、参加者から許可を得た上で、公式SNS (Facebookページ・Instagram)や館報、館内デジタルサイネージにて、イベントの様子(内容・参加者の反応など)を発信しています。
5	事例をご紹介いただいた三先生方への質問です。今回ご教示いただいた講座事例は図書館内に限らず、生涯学習、福祉など別部門の施設などでも実施がされていると考えられます。その場合のそのような施設との連携や差別化など議論されているのか、またどのような役割分担をしているのでしょうか	元つがる市菊池様	事業を実施することで本や図書館に魅力を感じて貰えるよう、図書館利用や読書とのシナジーを考えた事業を実施するよう心がけております。この部分が、役割分担・連携・差別化といったポイントになるかもしれません。 一方で、結果的に他施設と似たような講座を実施することは、それぞれが自身の施設の社会的役割を果たすために必要と判断したものと考えますし、利用者としても「前は参加できなかったけど次は参加する」といった機会の提供にも繋がるといいますので、良いことだと考えます。
		名古屋市脇田様	図書館は本を提供できる施設ですので、そこで差別化を図りたいと常々考えています。しかし、同じような講座がよそで行われていることは、地域の人が情報を知る機会が複数あるということなので歓迎すべきこととも思います。
		美馬市梶浦様	美馬市立図書館では、ご紹介した「みんなで古文書解説」や「みま歴史散歩」に限らず、カルチャー教室に近い内容のイベントも実施しています。開催にあたっては、「人と本をつなぐこと」をねらいとすることで他施設との差別化を図っています。また、参加費を無料(材料費を除く)にすることにより、誰もが気軽に学べる機会を創出することも開催の目的としています。
6	美馬市立図書館の梶浦さんに質問です。デジタルアーカイブについて、提供してもらった写真は返却なしで蔵書などにするのでしょうか。それともデータ保存したら提供者様へお返しするのでしょうか。よろしく願います。	美馬市梶浦様	写真はスキャナーでデジタル保存した後に、提供者様にご返却しています。
7	皆さんにお聞きします。なぜ図書館は、地域の皆さんから安全で中立な場と認識してもらえるのでしょうか？公民館などのコミュニティ施設とは何が違うのでしょうか？	豊田先生	公民館も地域で安全で中立的な場所だと思います。一番の違いは司書がいるかどうかだと思っています。
		元つがる市菊池様	安全で中立な場という意味では、公民館などの公共施設も変わらないと思います。 その中で図書館が「安全で中立な場」と認識いただいているのは、図書館には他施設と比べても沢山の本(あえてイベントと言ってもいいでしょう)があり、多くの人が目的の有無に関わらず立ち寄れる空気感や、雰囲気があるからだと思っています。 そのようなものが、印象論として安全で中立な場の代表例として認識いただく根拠になっていると考えます。
		名古屋市脇田様	図書館は特に用事を決めずとも立ち寄れて入館目的を問われない場所です。公共施設で安全という立場は変わりませんが、私たちに資料があり、それを通じて利用者の皆さんの課題を解決し、コミュニケーションをとっていく姿勢が常にあることが違いだと思います。
		美馬市梶浦様	「図書館の自由に関する宣言」に記されているように、「知る権利」や「プライバシーの保護」など、図書館が人の権利を大切にすることが場所であることも大きな要因ではないかと考えます。
8	豊田先生に質問です。21世紀の図書館像で「評価」がストーリーとなっています。自身も研究で図書館の事業評価として新しい活動が生まれたかなどを具体例を調べています。が、それは1エピソードでしかなく、全体の評価としていいのか悩んでいます。これからの評価について考えを伺いたいです。	豊田先生	ストーリーを伴わないデータが何の感動も生まないように、データを伴わないストーリーは説得力をもたないと考えています。ひとつのストーリーに対し、その背後にあるデータを付けることは、これからの重要なことだと思っています。
9	すでに既存の公共図書館の取り組みにおいて、様々な「資産」を結びつけた触媒的な実践の意義は確認できてよかったが、そもそも市民の立場から図書館の存続を否定したり、あるいは指定管理者契約を含めて財政縮小を首長部局が要求するような場合に対して、本分科会登壇者の対抗策を聞いてみたいです。	豊田先生	市民との対話は、「図書館をどうしたいか」から始めるのではなく、あくまで「この町をどうしたいか」から始めるべきことと思います。どんなまちづくりをしていくかについての合意形成ができてはじめて、そこで図書館の果たせる役割についても議論できる素地が生まれると思います。
		元つがる市菊池様	図書館の存在を否定されることも、財政削減としての指定管理者制度導入についても、本質は図書館の社会的役割を問うものであると理解します。 私としては、印象論や感情論に終始することは行わず、事実を、数字を用いて図書館がその町に果たす役割と有用性を示していくほかないと思います。 一方で、図書館の存在を問うような話題については、その自治体が図書館の役割をどう位置付けるか、といった視域が必要です。これは個人の対抗策を超えた話だと考えるとともに、議論する人の全員が、その自治体における図書館の役割を深く理解して初めて議論に値するものであると考えます。
		名古屋市脇田様	地域の方に図書館の活動を認めていただき、それを行政側が外部からの評価で確認することで、図書館が有用な施設であり指定管理にする意義があったと認識していただけるように、地道に活動していくしかないと考えています。地域の方が市議会議員に良い活動をしているとお話くださり議員の方が図書館のイベントに足を運ばれ、市議会で発表していただいたということもありました。
		美馬市梶浦様	図書館の存在価値をどれだけ多くの人に認めていただけるかがポイントと考えます。地域に親しまれ信頼され愛される図書館作りを進めるとともに、市民のニーズや地域の課題に即した多様な事業を継続的に行うことが重要だと思います。

	質問	回答者	回答
10	登壇したみなさまに質問です。豊田先生の講演で、日本の取り組みは個人に依存していて、点から広がらないと指摘がありました。その原因はどこにあると思いますか。アメリカとの比較や、実際の業務で感じた課題、提案があればお聞きしたいです。	豊田先生	今回は立ち入りませんが、行政の役割は大きいと考えています。国や地方自治体に対して、図書館の価値を伝える活動がもっと必要だと感じています。
		元つがる市菊池様	図書館は、様々な取り組みをしていますが、基本は受け身であり、来館者に対して行うサービスが殆どです。この姿勢が、結果的に「個人に依存」と映るのだと思います。私が課題と感じるのはここであり、これからの時代においては、図書館も建物の外に出ていく活動が必要になると思います。図書館自体が能動的に動くことで、点と点を線にし、面と成すような、そのような姿勢が重要になっていくのだと思います。その思想を具体化した例として、図書館のHPやSNS(“個人”が図書館の情報を求めて訪れる)ではなく、自治体のLINEなど、他のサービスに図書館の情報を入れてもらう(図書館以外の情報を求めて訪れた人に、図書館のサービスを届ける)、という部分から初めてみることは、良い視点だと感じております。
		名古屋市協田様	事例発表の時にも少しお話させていただきましたが、司書が図書館の建物から出て、主張していくことが大切だと思っています。私たちが取り組んでいる医療の分野や他言語のコミュニティにも積極的に出向き、図書館ができることを他分野の方と話しながら可能性を探っていきたいです。
		美馬市梶浦様	学校連携の際、担当教諭の異動により、事業が継続できない場合があります。事業においては、点で結びつくのではなく面で、個人ではなく組織としてつながり、協働することが必要と感じています。
11	菊池さんに質問です。「郷土学習講座」について教えてください。①毎月開催は大変だと思うのですが、講師、タイトルの企画、登壇依頼はどのようなサイクルで行っているのでしょうか。②告知、宣伝の方法、運営スタッフの人数、謝礼の有無、参加者の年齢層、リピーターが多いのかを教えてください	元つがる市菊池様	1)と同じ。
12	菊池さんに質問です。つがる市の事例でご紹介いただいた講座から地域に広がった活動があれば具体的に教えてください。	元つがる市菊池様	現在進行形のお話なのですが、地域おこし協力隊の方に登壇いただいたことがきっかけで、他の地域おこし協力隊の方とも繋がり、図書館との連携事業を複数検討中です。地域おこし協力隊の皆様には、郷土学習講座に毎年様々な切り口から登壇いただいております。それぞれ、活動内容が異なるので、現在は「図書館を盛り上げる」をテーマに複数の協力隊員と一緒に、共催事業を計画しております。また、地域おこし協力隊に対しても、図書館のリソースを使っていただき、活動の支援を行っております。 この他、2023年9月の「将棋の世界」については、郷土学習講座の講師登壇と並行して、2023年4月より月に一度、継続した事業として図書館での将棋教室を実施する予定でした。最終的には図書館で将棋大会なども予定していたのですが、諸般の事情により中止となってしまい少し残念な思いでした。
13	豊田先生への質問です。ビジネス支援といえば、ビジネスパーソンやスタートアップが中心のような気がします。ただ昨今、大企業も含めて地域と繋がりを持ちたい企業が増えていると感じています。こうしたニーズに対して、図書館が果たすべき役割はあるか、参考になる事例等教え頂ければ幸いです。	豊田先生	地元の産業を応援している公共図書館はたくさんありますし、「まちゼミ」のような商店街と連携する活動も全国にあります。金融機関や保険会社の人を講師に招いての講座もあれば、今回、講演して下さった協田さんの守山図書館では、携帯電話会社の人にスマホの使い方についての講座を開いてもらったと言っていました。地域にある企業も、その地域のひとつの資産ですから、そこと図書館の連携の仕方も無限にあると思います。ただ図書館の公共性公正性を失わないよう、注意することが必要かとは思っています。
14	守山図書館の協田さんへの質問です。がん教室の取り組みの他の図書館への広がりについて具体的に教えてください。	名古屋市協田様	医療関係の学会に図書館現場から登壇し、図書館ががんについて考える入口になることを発表したところ、発表をご覧になっていた医療機関の方が地域で広げてくださった例があります。がん情報サービスを提供している国立がん研究センターも取り組みを広げるために事例発表などに司書を呼んでくださっています。また、この取り組みをSNSなどで知った図書館員や患者の方が自分の地元の図書館に働きかけてくださった事例もあります。弊社の他の受託館に実施方法を共有して今月から始めた事例もあります。がん教室に限らずディスレクシアの相談会なども同じように広がっています。
15	豊田先生へ質問です。『闘う図書館』P42に「行政と住民をつなぐ」事例が紹介されていますが、今、公共事業を行うにあたり、不透明なプロセスで進められてしまうケースを見ていると、日本でも図書館が行政と住民をつなぐ活動が必要だと痛感します。そのためには、何が必要でしょうか？	豊田先生	図書館は、住民に最も近いところにある行政の出先機関であり、行政と住民をつなぐベスト・ポジションにあると思っています。日本の図書館は、行政資料を住民に提供するなど、行政から住民への方向は強いのですが、住民の声を行政に反映させる逆方向の活動が弱いのが残念なところですが。行政組織をよく知ること、どの部署がどんな活動をしていて、その人たちがどういった情報を必要としているのかなどにアンテナを張っておくことが大切です。北海道・滝川市の図書館では、行政のパブリックコメントを図書館の入り口近くで集めています。一般住民の声を集める場所として、図書館が有効であることを立証するひとつの例として見えています。